

●活用プランF 「岡山後楽園御舟入跡から江戸時代をとらえよう」

<センター準備物>

- ・検出された御舟入跡（写真）
- ・現在の正門（写真）

<学校現場での準備物>

- ・ワークシート

小単元「岡山後楽園御舟入跡から江戸時代をとらえよう」

- ・1時のめあて 「御舟入という施設は、どのように使われていたか」
 - ① 岡山後楽園の説明と御舟入はどこにあるのか（10分）<センター職員の説明>
 - ② グループワーク（25分）
 - ・「御舟入は何に使ったか」
 - ・「御舟入は誰が使ったか」
 - ・「御舟入はなぜ埋まったか」
 - ③ 疑問とまとめ<センター職員の説明込み>（10分）
- ・2時のめあて「御舟入の変遷から当時の時代背景を考察しよう」
 - ① 御舟入がつくられたのはどんな時代だったか（10分）
 - ② グループワーク（15分）
 - ・グループごとの「御舟入」が使用されていた時代について話し合い、スライド内容を整理する。1時で疑問に思ったことについて他グループへ共有する。
 - ③ 「自分たちで考察した内容を専門家と一緒に確認しよう」（10分）
 - ④ 疑問とまとめ（10分）
 - ・説明を受けて生徒たちがまとめる

※御舟入とは、岡山藩主が対岸の岡山城と岡山後楽園を往来する際に使用した舟着き場。藩主1人のために作られた岡山後楽園の入り口だが徐々に埋まり、平成24年に発掘調査をするまで竹林となっていた。この施設が埋まっていく過程には、武士の世の移り変わりが反映されている。

◎1時のみの短縮でご活用いただくこともできます。

資料カード案__活用プラン F「岡山後楽園御舟入跡から江戸時代をとらえよう」



▶ 岡山後楽園御舟入

岡山後楽園内にある階段状の遺構



▶ 岡山後楽園写真

現在の正門→かつての西門